

巻頭言

比治山大学・比治山大学短期大学部
学長 石井 眞治

21世紀社会に対応した資質育成を対応するための学校教育におけるアクティブ・ラーニングの学習理論と教育実践が大学における関心が高まってきています。比治山大学は平成26年に文部科学省「大学教育再生加速プログラム」の研究実践を受託され、本日まで鋭意研究実践してきました。

小学校・中学校でもアクティブ・ラーニングの導入の関心が高まってきています。そのため、教師の学習指導方法、学習評価の在り方が重要となっています。

本年度、比治山大学現代文化学部子ども発達教育学科と広島市教育委員会は、行政法人教職員支援機構の「教員の資質向上のための研修プログラム開発事業」に採択され、本学と広島市近隣2校と研究実践を進めてきました。

ここに『小学校版「アクティブ・ラーニング」の授業実践』を刊行しました。本報告集がお役に立つことができれば幸甚です。

広島市教育委員会学校教育部指導第一課
課長 松浦 宰雄

平成29年度「教員の資質向上のための研修プログラム開発事業」の指定を受け、比治山大学現代文化学部子ども発達教育学科を中心に『『アクティブ・ラーニング』の視点からの授業デザインと指導法改善及びメンタリングによる教員の研修プログラムの開発』をテーマに研究を進めてきました。本研究では、大学の研究で蓄積された知見を踏まえた指導改善事例を小学校の授業改善に導入することにより、指導法の改善を図るとともに、その具体を基にした教員研修プログラムのテキストを作成することを目指しています。本年度は、大学との緻密な連携のもと、戸坂小学校、牛田新町小学校の2校が、様々な教科・領域の具体的な授業実践を通して研究を深めました。本書「小学校版『アクティブ・ラーニング』を視点とした授業実践」にまとめられた実践例を参考にいただき、本市が進める「豊かで深い学び」の実現に向けた授業改善が進むことを願っています。